11月12日　きょろちゃんず　GP議事録

　　　久保、中島、村木、小川

**■前回の論**

①背景人口減少、グローバル社会

現状留学生受け入れが求められている、受け入れ増加傾向

BUT　重要視されているようだね　　たとえば、留学生30万人計画

先行研究　問題：30万人受け入れたところで、どうしたいの？

↓

文科は…

•受け入れ政策…各大学の判断　質の高い留学生

•魅力向上政策やろうとしてる（質の高い受け入れUPのため）→しかし、これは日本への留学誘致にしかなっていない。たしかに、就職支援はやってるけどそれだけではうまくいってない

ex.)日本語障壁なら、大学で定着政策として日本語教えたりするべきなのでは？

↓

日本で活躍してほしいという文脈のもとで受け入れた30万人の活かし方を考えないといけないはずなのに、留学生の定着を国が中心となって体系的にやっていない

→この慧遠が有力なのでは？

これでいくならどう検証する？

②P.P.　留学生の日本への定着少ない

→30万人計画などにおいても求められている

先行研究留学生30万人受け入れたところでどうするのかまで言及されていないことが問題

↓

仮説　海外比較　受け入れた留学生の活かし方が

海外：明確　　日本：不明確

やっぱり海外比較してみると、ここが問題かもね！

これら２つの論の軸になった考えは…

背景人口減少、グローバル社会：外国人に日本で活躍してもらいたい

↓

受け入れ増やしたい。そのために

↓

大学の魅力UP　のために

↓

外国人教員の確保、スーパーグローバル大学…文科の取り組み、大学の魅力向上政策

↓

* 外国人留学生を日本に定着させる政策←できてない！

ほんとに外国人に日本で活躍してもらいたいと思ってるのか？（ちーちゃん）

**■ちーちゃんが考えてきてくれた論**

1. ＜PP＞グローバル化する中で、(国際化における重要な政策である)留学生政策が必要とされている！
⇒日本は留学弱者で、留学生政策が弱いことは問題

エビデンス　東條さん＆留学生数（両方）＆塚原さん

1. 先行研究をみてみる

[高良] 日本の留学生政策は相互交流や人材育成できてない

[東條] 日本の留学生政策は受け入れ中心

▶︎両方とも同じように非英語圏である欧州の大学の留学生政策は評価している

▶留学生政策自体は充実しているのに大学の国際化にはまだ問題があるようだ

1. ＜RQ＞留学生政策において相互交流がなされず、国際化がすすんでいないのはなぜか
2. 仮説
3. 留学生受け入れ後、どうしたいかが明確でない
4. 留学生と日本人学生が一緒に学ぶ機会が極端に少ない
5. 検証
6. 海外：安全保障、EU内での人材育成など明確⇔日本：不明確
7. 海外と日本のシラバスもしくは留学生向けプログラムを比較

「国際化が進んでない」ってどうやって言うの？　相互交流ってどういう状態？　留学生と日本人学生が一緒に学ぶ機会が少ない→言語の問題があるから仕方ないのでは？（ちかちゅう）

むらしほ：留学生政策と移民は結びつく

内閣府は高度人材を呼び込もうとしている

質と量の問題

稲井　外国人留学生の日本就職率

2005−2007年 12.6%UP　その後伸びず。

2010年度に減少（在留資格）

寺倉　日本にとっての受け入れの意義を考えるべき！

**■むらしほ案**

留学生ふやしたい→理由は：日本で働いてほしい→日本に「定着」をサポート←留学中から大学でいろいろ

大学の競争力を高めたい、留学生増やしたい、すすめるために英語で授業、単位互換

→よびこみとしてはすすめればよい。

競争力

大学の国際化という文脈における留学生政策

ちかちゅ：留学生30万人計画とかをみていくなら文科を見ているだけじゃだめだ。

あと、海外を見て、そのなかでどういう制度をつかったとか、目標とかカリキュラムとかもっと落とし込んで具体的なところをみないといけないのでは？

**■ちーちゃん案**：人材育成⇒大学の競争力UP

世界で活躍　学術的評価高い

留学生受入数が海外と比べて比較的少ない→言い換えると…P.P.国際化が進められていない　って言ってもいいのでは？

先行研究

30万人の計画がうまくいってない、目的がなされていない　と言われている

⇒目的の話につなげる

* 資料の繋げ方次第で「目的が不明瞭」路線でもいけるんじゃないか
* 留学生政策で行くのなら、（上に書いた①の論でいくのなら）大学の国際化については触れない方がやりやすいかも

↓以下、追加で資料読んでわかったこと

•グローバル化する中で（国際化における重要な政策である）留学生政策が必要とされている。

⇒現状：諸外国に比べて留学生の割合が少ない（政策は充実しているのに…。）

•OECD（ちかちゅう）

①国際強力理解系モデル

②貿易ビジネスモデル

③高度人材獲得移民モデル…内閣

④高等教育拡大•補完モデル…文科

⇒それぞれのモデルがハイブリッドで用いられている。

これら４つの優先順位をそれぞれの国で考えながら行う

先行研究●高良：•留学生30万人計画の目的が不明確　　　なんで？

•相互交流、人材育成ができていない

●東條：•受け入れ中心

•国際化とは…人材育成は大学の使命　大学の通用性、共通性

●秦：•ボローニャ•プロセスは国際化と言うよりヨーロッパ化

•競争よりも社会への貢献性を重視すべき

●松本：•「受け入れ」と「送り出し」の両方が必要

相互交流≒「大学の国際化」

※松本さんのもっと新しい論文あれば尚良し。

●神余：大学の国際化とはなにか→日本人でも外国人でもどっちでもいいので、日本の国際化に寄与してもらえる様に

**しゅくだい**

P.P. 「留学生受入数が海外と比べて比較的少ない」を想定しつつ（留学生政策でも、大学の国際化でも良いから）先行研究がどういうことを言っているのか黒板に書けるくらいにまとめておく。海外のやつも見れたら見てくる。

読んで来れる人はこれ。↑（参考資料のPDFはdropboxに追加してあるのでこちらも参照）

読めなさそうなら、前回考えた論点（この議事録にも書いといたやつ）のどこが修正できそうか考えてくる。